

# 『楽器演奏を通じて 親子のコミュニケーションを』



バイオリン科指導者 末広悦子

朝日新聞（名古屋本社）2000年9月24日付より転載  
シリーズ特集「イノベーション2001

～21世紀・生活変革の旅～

親子関係が希薄な現代  
スズキが果たす役割は大きい

私のスズキメソッドとのかかわりは、指導者として三十一年、自分が生徒であった時期も含めると、もう五十年にもなります。半世紀もの間、スズキメソッドとかかわりを持ち、生徒の立場と教える側の立場を経験して感じることは、スズキメソッドが単なる音楽教室ではなく、子どもの育て方そのものにまで影響を与えているという点です。近年、少年犯罪が増え、子どもの育て方が問題視されていますが、今後は、家庭でもなく学校でもないスズキメソッドのような第三者機関の果たす役割が、さらに注目を集めてくるのではないかと思えます。

スズキメソッドの創始者である鈴木鎮一先生が、常に指導ポリシーとして

いらした言葉に「どの子も育つ、育て方ひとつ」というのがあります。この言葉は、今も私たちの指導の原点となっていますが、私たちは楽器演奏を教えることのみならず、その子を音楽を通して、より高い感性と能力を持った人間に育てることに重点を置いていますので、家庭での教育に関しても言及させていただいています。スズキメソッドでは三歳位のお子さんからお預かりしますが、小さな子どもさんは、基本的な生活習慣がついていない子が多いため、まずそこからお話しします。入会する前には、教室での指導のようすを見学していただくことから始め、最初は十分でもいいから興味を持ち、じっと座って見学できるように指導します。そして子どもに「やってみていい」という意欲が出てきてから楽器を与えるというプロセスをふんでいます。

スズキのレッスンの特長は、少なくとも中学生ぐらいまでは、できれば親

に同伴していただきたいという点です。なぜならば、一週間に一度のレッスンは教室で受けますが、次のレッスンまでの一週間の家庭でのレッスンはお母様が先生なので、何をすべきかをお母様が知る必要があるからです。これはどんな楽器の演奏においてもいえることですが、上達の秘訣は毎日の練習にあります。お母さんが真剣に子どもと向き合い、毎日のレッスンをすることが大切なのです。半世紀もスズキとかかわってきて感じることは、社会が変わってきて感じるようになってきたことです。仕事を持ちながら子育てしている母親が増え、親子の関係も希薄になりがちです。そういう時代だからこそよけいに親子のコミュニケーションが必要で、そういう点においてもスズキが果たしている役割は大きいと思います。

### 挫折感を持たせず 達成感を与えたい

スズキのレッスンで、もう一つの大きな特長は、一カ月に三回の個人レッスンのほかに、一回のグループレッスンがあるということです。今、学校では学級崩壊といわれていますが、グループの中で弾く喜びを知ることが大切なことで、これによって大小の集団の中でも、自然に打ち解けられるようになります。グループレッスンでは、子どもが上手な人の演奏を見て、自分もあなりたいという意欲を持つことができます。いっしょに演奏することで能力も伸びます。親も、全体を見ることが自分の子どもを客観的に見ることができます。

長い間、指導に携わっていますが、一番うれしいのは、やる気のなかった子が、意欲をもって取り組むようになってくれた時です。子どもによって伸び方も違い、すんなり伸びる子どもいますが、そうではなくて投げだしそうになる子を、なだめたりすかしたりしながら、止めさせないように指導するのはたいへんです。でも、途中で止めてしまえば、その子は挫折感を持つだけでしょう。それは、その子の先生に決して良い影響を与えるとは思えません。私たちは、そうした挫折感を持たせることなく、ひとつの達成感を持つところまで教えていきたい。その達成感が自信につながり、その子のその先の人生にとって、きっと大きな力になるものと信じています。

鈴木先生は、「私はアマチュアを育てるのが使命です。」と言ってはばかられません。これは決して自分の携わっている楽器の演奏が下手で良いということではなく、プロと変わらぬ實力を持ちながらのことで、例えば

アインシュタインのような人を理想としておられました。「一人の飛び抜けた才能を持つ演奏者を育てても社会は変わらないが、良い聴衆を育てれば社会は変わる。私はそんな聴衆になる子どもたちを育てたい。」とおっしゃいました。私もその意志を受け継いで、今後も指導にあたっていききたいと思っています。

(談)

【プロフィール】  
すえひろ・えつこ／1947年四日市市生まれ。3歳からバイオリンを習い始め、鈴木鎮一氏の指導を受け、69年聖心女子大学卒業。同年よりスズキメソッドの指導にあたる。73年から78年までの5年間は、恩師鈴木鎮一氏の命により、アメリカの南カリフォルニア大学に出向き、スズキのプログラムを浸透させるべく指導にあたった経験を持つ。現在、四日市市においてスズキメソッドのバイオリン科指導者として活躍中。

©朝日新聞社